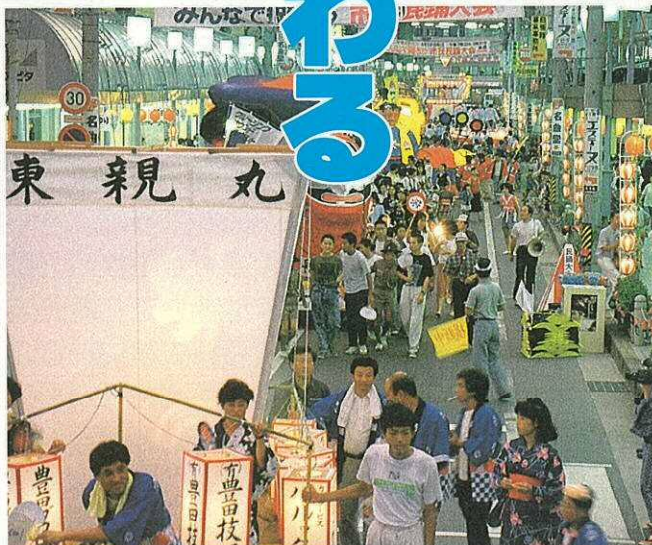


豊田まつりへの提言 “市民総参加のまつりをめざして”

はたち
二十回を過ぎればまつりも大人です。
おとな

クルマのまちの まつりが変わる

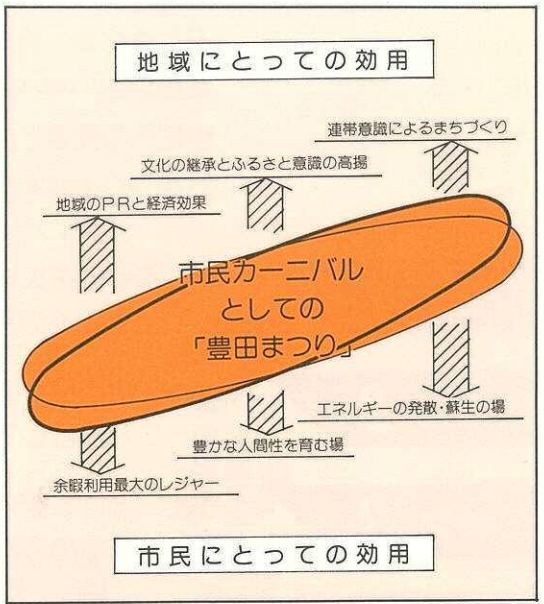


1 市民にとってまつりとは

まつりの理念

まつりは本来信仰とともにあった。神（仏）霊を慰めつつ貧しい暮らしのうっぶんを晴らし、精神のバランスをコントロールしてきた人類の知恵とも言える。すなわちまつりは、日常の秩序を忘れ、人間の本源的なものを精一杯謳歌する中で新しいエネルギーを体内に蓄え、明日からの労働にいそしむ、その転機の間として存在し続けてきたと言える。豊田まつりは、「市民意識の連帯とふるさと意識の向上」を目的に行政の提唱により始まり20回を経過したが、今一度まつり発祥の原点に帰り、来たるべき新時代を展望した真の市民まつりに発展させる必要がある。

まつりの効用



展開方向

- 1 行政が与えるまつりから、市民がつくるまつりへの転換
- 2 まつり本来の効用が最大限発揮できるまつり
- 3 圧倒的多数の市民が参加し、他市、他県に誇れるまつり
- 4 地域の個性を押し出し、市外客をも誘引できるまつり



開催趣旨

『ふるさと豊田の文化を育み、豊かな人間性を培い、明日のエネルギーを蓄える楽しいカーニバルを市民の手で創造する。もって、市民の心の連帯と活力ある豊かなまち豊田市を築こうとするものである。』

テーマ

『エキサイティングな出会いが未来を拓く、^{ひら}クルマのまちの人間讃歌 豊田〇〇まつり』

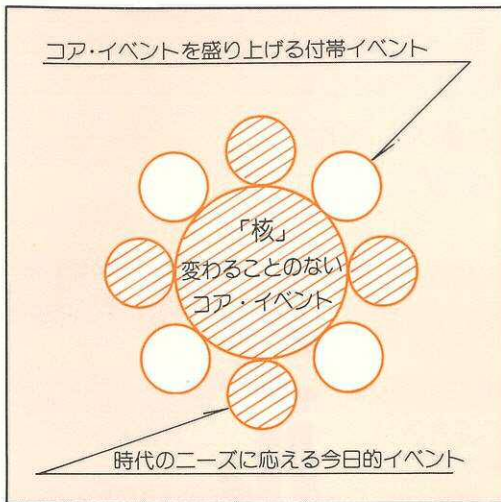
只今新しい曲と踊りを創作するため歌詞を募集中です

あなたの歌詞から新曲が生まれ新しい踊りが生まれます。一味違った豊田の名物踊りづくりに参加してみませんか。

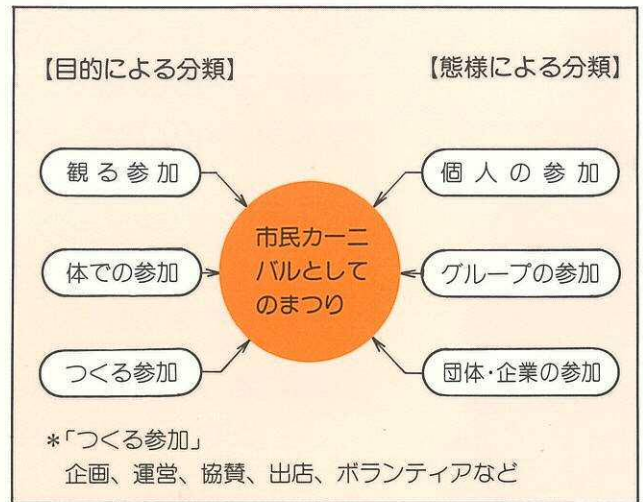
- 賞 最優秀賞20万円(1作)
- 優秀賞5万円(数作)
- ×切 平成元年2月10日(金)
- ※詳しくは市観光協会まで。



まつりの「核」



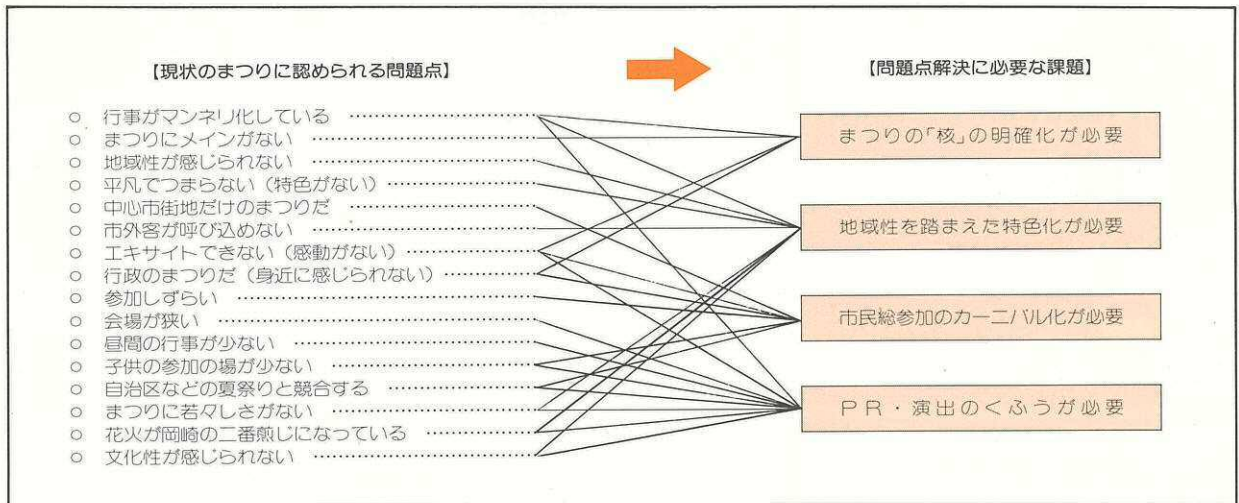
参加のかたち



地域文化のパフォーマンスとして未来に引き継ぐイベント

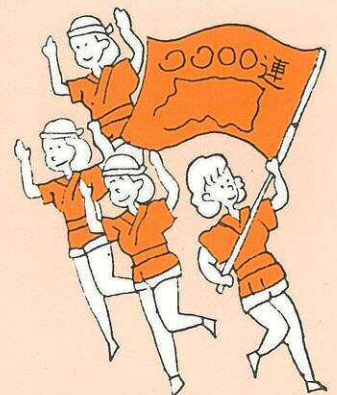
あらゆるかたちの参加を受け入れるイベント

新しい民踊大会と花火大会をまつりの核とする



踊り連をあなたの
職場、地域、
学園、グループ
につくろう

踊り連は新豊田まつりへの新しい参加方式です。30~100名程の踊り連が数千数万と繰り出すさまはまさに壮観そのものでしょう。衣装や踊りに工夫を凝らして連のユニークさを出せば、踊る人観る人みんなが楽しめることでしょう。



③ どんなまつりをめざすのか

新しい時代の幕開けが記念すべき市制50周年とともに
おとずれる。まつりが文化のパフォーマンスであると
するなら、今、創造しようとする市民カーニバルは21
世紀への先達となるであろう。西暦2001年の完成され
たまつりの姿を市民みんなで追いつけよう。

ビジョン 1

名物踊りと花火を核に“フルマのまちの人間讃歌”と
して全国にその名を馳せ、日本有数のまつりとする。

ビジョン 2

すべての市民が情熱的で感動的なふるさと豊田の市民
カーニバルとして世界に誇れるまつりとする。

ビジョン 3

都市における観光資源となって、観客動員数50万人を
越し、まちの活性化と潤いにつながるまつりとする。

ビジョン 4

地域文化の振興をもたらし、市民の豊かな人間性を育
て、限らない豊田の発展に寄与するまつりとする。

——新しい踊りは ロックやサンバがよく似合う——

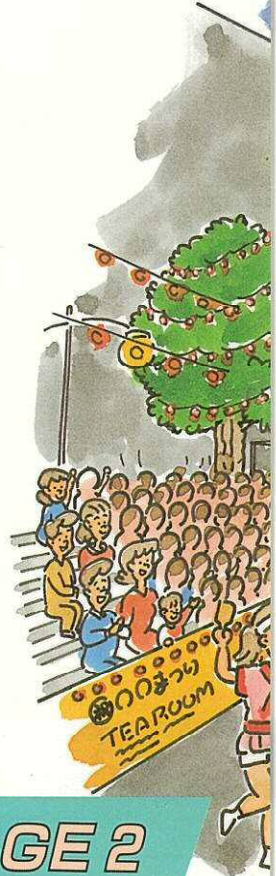


IMAGE 2

まつり第3日目 午後9時
まつりのフィナーレを飾る花火大会
がクライマックスを迎えた
豊田の名物花火『スクリーンオブサ
ファイヤー』の始まりをシンセサイ
ザーのBGMと中空をあわただしく
走るレーザー光線サインが予告した
30万人の観衆の沈黙を視界いっぱい
に広がる炎のスクリーンと耳をつん
ざく大音響が掻き消した
白昼のごとき光線が夏の夜のドラマ
に酔いしれ天を仰ぐ肖像と化した人
々の姿を映しだす

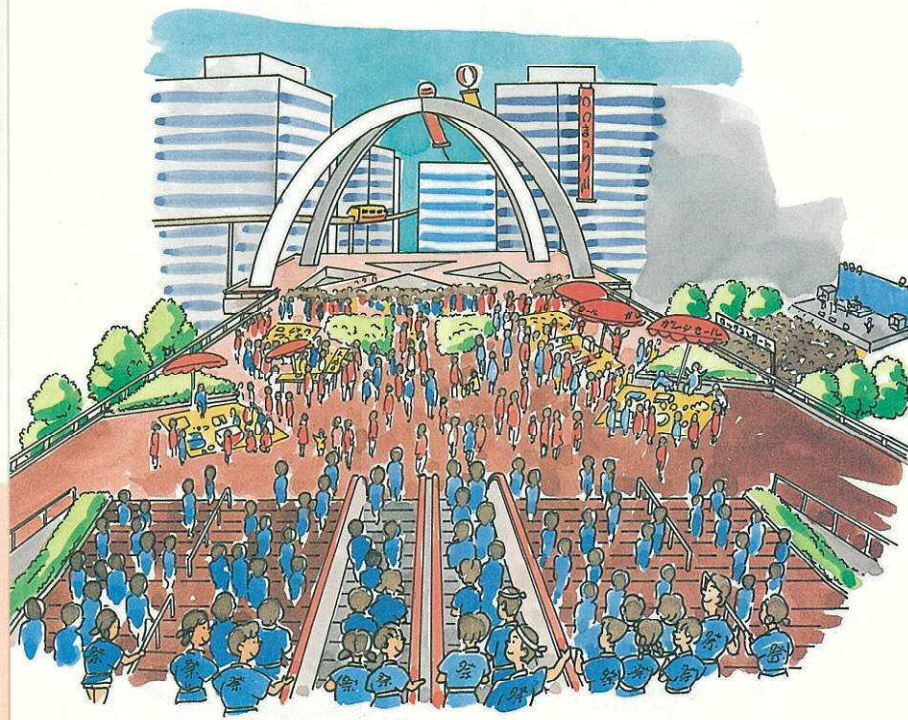


IMAGE 1

まつり第2日目 午後7時
いまではすっかり名物となった〇〇
踊りの市民総おどりがスタートした
まつりはクライマックスを迎える
都心の目抜き通りは、企業、団体、
グループの踊り連とたまりかねて飛
び入りした観光客、市民でたちまち
埋めつくされた
T会社連のはりぼととA女子大連の
真紅のハッピーがひときわ目を引く
ビートのきいたロックのリズムがピ
ルの谷間を流れるイルミネーション
の光を震わせる

IMAGE 3

街路樹の木もれ日がキラキラとまぶ
しい真夏の昼下がり
市民の休日となったまつりの3日間
フルマのまちの都心は、一年中で最
も喧騒を極め活気づく
豊田まつりのCenter of The City
Fairにどつと繰り出した人、人、人
ベダストリアンテッキのカレーセ
ールや緑陰歩道の朝市は主婦らであ
ふれ、せせらぎは子供たちの水かけ
合戦場と化す
シティープラザで始まるうとしてい
るロックコンサートに若者が急ぐ



21世紀への
ステージプラン

現在
1988

第1期 (模索期)

市制
40周年
1991

第2期 (成長期)

第26回
1994

第3期 (成熟期)

第30回
記念
1998

第4期 (完成期)

市制
50周年
2001

目標
21世紀

提言1 名物踊りの創出

新しいまつりの核づくりのため民踊大会の一新が必要である。そのため軽快なリズムで誰でも踊れる名物踊りを創作する必要がある。

提言6 新しい協賛方式

まつりの安定的な発展に必要な資本の確保のため、メニュー化された新しい協賛方式の検討が必要である。

提言11 まつりの体系化

新しいまつりと自治区などの盆踊り大会等との競合を避けるため、相乗的に盛り上げるためのまつりの体系化が必要である。

提言16 今日的事件の配置

まつりを常に新鮮に保つため、参加者のニーズを踏まえた今日的事件を民間の活力を活用しながら計画的に配置する必要がある。

提言2 名物花火の創出

花火大会の魅力を増すため、会場条件を活かした名物花火づくりと音響、光線などの演出、テーマとストーリーの展開が必要である。

提言7 踊り連の組織化と振興会

新しい踊りの名物化を図るため、踊り連を職場、地域、学園等に組織するとともにこの推進組織として振興会を設立する必要がある。

提言12 まつりの場所

まつりには、まちの賑わいが必要であるため、会場は都心部がふさわしくデッキなど新たなアメニティ空間も利用すべきである。

提言17 まつりのムードづくり

まつり本番を盛り上げるの頂点とするため、PR、まち飾りなどのほかプレ・イベントを計画的に実施する必要がある。

提言3 まつりの母体

行政主導のまつりを改めるため、市民、団体、企業等を中心に構成する新しいまつりの運営母体をつくる必要がある。

提言8 個人の参加の場

名物踊りへの個人参加、飛び入り参加など連に組織されない市民の参加について、運営、演出の中で十分配慮する必要がある。

提言13 テーマとストーリー

行事毎、一日毎、まつりの三日間それぞれにテーマが設定され、ストーリーが展開されるような演出が必要である。

提言18 まつりの警備

まつりの大規模化は、同時に警備業務と事故の危険を増大させるため、警察署等の指導のもとに周到な警備計画を策定する必要がある。

提言4 市民のまつりへの参画

個人や市民の小グループをまつりづくりのプロセスの中に位置づけ、まつり好きの小グループが多教育環境をつくる必要がある。

提言9 昼間の行事

まつり行事に連続性を持たせ、豊田をふるさととする子供たちの参加の場を確保するため、昼間行事を計画的に配置する必要がある。

提言14 付帯イベントでの盛り上げ

名物踊り、花火大会に付帯して出演者と観客に興奮と感動を呼び起こすコンテストなどの付帯イベントの計画的な配置が必要である。

提言19 まつりとまちの活性化

まつりを資源とする都市型観光を推進し、まつりによる人と人との結び付きをまちの活性化に活かすことが必要である。

提言5 行政のまつりへの支援

行政は、市民中心にすすめられるまつりの運営を、従来以上の関心とかわりを持ちながらこれを支援する必要がある。

提言10 まつりのとき

市民総参加のまつりとするうえで特に重要な期日の設定は、圧倒的多数の市民の休業日であることが望ましい。

提言15 くふうを凝らしたPR

新しいまつりを日本有数のまつりとするためには、斬新なアイデアとあらゆる情報媒体を活用した積極的なPRが必要である。

提言20 まつりによる人材育成

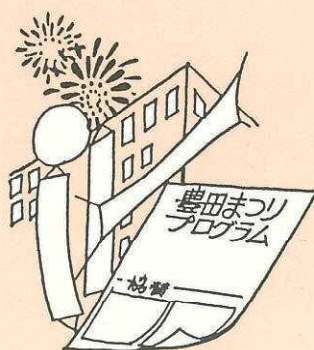
まつりを、豊かな人間性を育む場、地域リーダーや企業・団体の人材育成の場として位置づけ、有効に活用することが必要である。

提案します。

ドラマチックな夢づくり

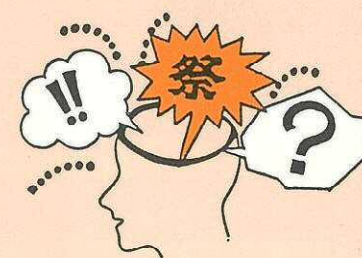
おつきあいの協賛から会社のPR戦略としての協賛に

これまで花火中心であったまつりへの協賛方式が改められ会社のPRに大いに役立つ協賛メニューが用意されそうです。まちかざりのノボリや横断幕、ビルのけん垂幕やまつりプログラム等々。花火の大規模化も期待したいですね。



豊田の個性をまつりに活かすアイデア求めます

これこそクルマのまちのまつりと言える特色を名物踊りと花火に出せないか。これが新しいまつりづくりの最大の課題です。また、まつりのネーミングも親しみのあるユニークなものとしたいですね。市民アイデアとして提案下さい。



懇談会開催経緯

第1回懇談会	昭和63年3月1日	諮問
第2回懇談会	昭和63年4月25日	
第3回懇談会	昭和63年6月28日	まつり診断
第4回懇談会	昭和63年8月26日	
第5回懇談会	昭和63年9月28日	
	昭和63年10月14日	中間答申
第6回懇談会	昭和63年11月8日	
第7回懇談会	昭和63年11月20日	先進地視察
第8回懇談会	昭和63年12月7日	
第9回懇談会	昭和63年12月26日	答申

豊田まつり懇談会委員

会長	豊田市議会議員	田中 務
副会長	豊田市地域婦人団体連絡協議会 会長	浦野美代子
委員	愛知県観光協会 事務局長	鈴木 甚一
委員	豊田市区長会 副会長(総務部会長)	加藤 光茂
委員	豊田商工会議所 事務局長	鈴木 正之
委員	豊田中央商店街振興組合 専務理事	日恵野重男
委員	猿投商工会 事務局長	高木 初男
委員	豊田市豊田農業協同組合 総務部長	鈴木 光春
委員	豊田市青年団協議会 会長	伊豫田善彦
委員	加茂地区労働組合協議会 事務局長	吉田 道徳
委員	豊田文化協会 副理事長	加藤 博章
委員	市民代表(前市政モニター)	横内 信子
委員	豊田市社会部青少年婦人課 課長	高木キヨ子
委員	豊田市経済部 次長	太田 正巳

豊田まつり懇談会答申 概要版

1988年12月26日

発行 豊田まつり懇談会
 編集 豊田市観光協会
 〒471 愛知県豊田市西町3-60
 豊田市経済部商業観光課内
 Tel(0565)31-1212(内434、435)

